

平成二十年度

大洲市地域福祉(ボランティア)研修会

平成二十一年二月十五日(日) 大洲市総合福祉センター



二月十五日(日)、大洲市総合福祉センターにおいて、『悲しみをわかしあえる、支えあえる社会の実現のために』をテーマとして大洲市地域福祉(ボランティア)研修会を開催しました。当日は市内を中心に約二百十名の参加をいただきました。

開会行事の後、佛教大学社会福祉学部社会福祉学科教授 永和良之助



永和良之助先生

先生を講師に「これからの地域福祉とボランティア活動」と題した講演が行われました。ご自身も高齢者福祉の現場に三十年従事されている永和先生は、次のようにお話されました。

これからの福祉はお年寄りや障害を持つ人たちの尊厳・人権を擁護していく福祉の在り方が追及されなければなりません。良質の福祉実践は、深い人間理解の中からしか生まれないことを認識することが大切です。

日本の社会福祉の発展の歴史はまだ浅く、未だに障害を持つ人や高齢者が社会から隔離されての生活を余儀なくされているという問題を抱えています。社会福祉は子どもとお年寄り、障害を持つ人と

持たない人といったような異なった世代、異なった状況にある者同士が断絶することなく、住みなれた地域の中で自然に交流し、相互に刺激を与え合っていくものでなければなりません。

また、ボランティア活動というのは、「新たな公共」を創るための市民活動です。社会の中で起きている不条理な事柄に関しての憤りや、社会を良くしていきたいという思いから始めたことはたくさんあるのではないのでしょうか。「私はこんなことをしている」などと言も言わないけれども、社会の中において皆が安心して過ごせるように、名もない活動をされている方は地域にたくさんいらっしゃると思います。その活動は蝸蠂の火のように本当に小さな火かもしれませんが、しかし、そういう火がなければ社会は闇の中のようになってしまうでしょう。

現代は全



て行政がやれるような時代ではありません。私たちが市民活動として「自分たちの地域は自分たちで創っていくのだ」という思いがなければ、この社会は物質は整っていくけれども何か大切なものを失っていくように感じる社会になってしまいます。

大変難しい問題は多々ありますが、お互い支え合わなければ生きていけないのが人間です。ですから、ごく自然な形で相互に助け合っている社会を身近なところで作り上げられていくことを願ってやみません。

とても穏やかな口調で、福祉についていろいろな切り口からお話いただいた講演は分かりやすく、これからの地域福祉やボランティアの活動に一層深みを増すことができるものとなりました。

